

高齢者施設における感染症・食中毒予防対策 ～ ATP ふき取り検査を活用して～

社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
常務理事

桐ヶ谷 成昭 氏



その他

特別養護老人ホーム 3 施設（新鶴見ホーム、横浜市新橋ホーム、横浜市浦舟ホーム）を運営している社会福祉法人横浜市福祉サービス協会では、施設内における感染症・食中毒の予防対策の一環として ATP ふき取り検査を活用している。各施設内では、職員の手洗い後の手指、調理場（手洗い設備、作業台、冷蔵庫の取っ手、まな板、食器、手袋など）トイレ・汚物処理室（便座、手すり、スイッチなど）、配膳室（流しの蛇口、冷蔵庫の取っ手、食事テーブルなど）、共用部（手すり、テーブル、冷蔵庫の取っ手、浴槽・洗面所など）など、さまざまな箇所をふき取り対象に選定し、一般よりも厳しめの基準（手指：1000RLU、器具：200RLU、医療器具：100RLU）で管理している。桐ヶ谷氏は「ATP 検査を用いた洗浄指導により、職員の衛生意識が向上するとともに、かなりの衛生状態の改善が認められた」と語る。本講演録では、同協会における感染症・食中毒予防対策の取り組みについて紹介している。